

村上市宮蒲萄スキー場の運営計画（案）

（平成 25～29 年度）

平成 25 年 7 月

村上市商工観光課

蒲萄スキー場の営業方針

- 1 リフトの総点検に基づく施設整備を行い、リフトの安全を確保するとともに、安心して利用いただけるよう管理運営体制の整備を図る。
- 2 冬場の親雪利雪活動の一環として、雪に親しむよう広報活動を実施するとともに、初心者教室の開催やスキー授業の誘致等を行い、市民の健康増進、青少年の健全育成を図る。
- 3 市民や地域、スキークラブ等との連携を深め、お客様に対するサービスを向上させるとともに、地域の活性化に貢献できるスキー場運営を図る。

村上市蒲萄スキー場は、昭和63年に旧朝日村営スキー場として開設され、大自然の中で行うスポーツとして、地域住民の健康維持、体力増進、青少年の心身の健全な発達、さらには市内の冬季観光施設として大きな役割を果たしてきた。特に山北地区、朝日地区の児童・生徒にとっては、隣接のスキー場までの距離が遠いため、スキー授業の大切な施設として位置付けられてきた。また、生涯スポーツとしてもスキー、スノーボードは、実施率が高く本市成人の体力増進、健康維持に大きく寄与している。

「元気^い“e”まち^ー村上市」をキャッチフレーズに掲げ、地域の元気づくり、市民協働のまちづくりを進める本市にとって、地域の活性化を図る上でも重要な施設である。日本海東北自動車道の朝日まほろばIC―あつみ温泉IC間の年度内事業化の目途が立ち、インターチェンジも蒲萄スキー場近くに建設されることから、益々利便性が向上し、高速道路から降りてもらえる観光施設の一つである。また、地域の農業関係者などの冬期間の雇用の場として重要な役割を果たしている。

本市では、昨シーズン休止したが、索道技術管理者を含む管理体制が整備されること、リフトの総点検を実施、整備を行い、リフトの安全が確保されることから、平成25年度の営業を再開することとする。

蒲萄スキー場の第1ペアリフトは建設から24年、第2ペアリフトが22年経過し、経年劣化が進んでおり、休止期間に実施した設備点検の結果、修繕の必要箇所が明らかになった。お客様に安心して利用していただくため、安全面を考慮し、営業再開のために万全の態勢で臨むこととする。人口減少化の傾向ではあるが、更なるPRと地域と一体となった集客活動に取り組み、市内唯一のスキー場として市民に利用していただける地域に根ざしたスキー場を目指す。

蒲萄スキー場の魅力は、小規模ながら近隣スキー場にはない中上級者に好まれる変化に富んだゲレンデと豊富で上質な雪質にあり、レベルの高いスキーヤー、スノーボーダーが集う。反面、初心者や家族連れには難しい面もあるが地域、スキークラブなどと連携、協力し合いサポートする体制を構築し、全面営業する。

最後に、蒲萄スキー場は本市唯一のスキー場であり、観光、教育、生涯スポーツ、そして市民の健康づくりの場として、市民、地域、スキークラブなどが協働して運営するような体制づくりを目指す。

蒲萄スキー場再開に向けた運営計画

1、運営方針

- (1)雪国に生まれた村上市民の冬場の健康・体力増進、子どもたちの学校教育・生涯スポーツの施設として、また市民のための市営スキー場として、地域住民と一体となったスキー場運営を目指す。
- (2)地域活性化の重要施設であり、地域の元気づくり、地域の雇用に積極的に取り組む。
- (3)お客様が安全に安心して利用していただくための管理運営体制の徹底を図る。
- (4)お客様に満足していただける従業員教育を図る。
- (5)学校スキー授業や子どもたちが安心して利用できるサポート体制の確立を図る。
- (6)スキー場を育てるワークショップを開催し、地域、市民を巻き込んだ運営を目指す。

数値目標

(1)学校授業の受け入れ

目標受入人数 H25 1,200人 ⇒ H29 1,800人

(2)入場者数の向上

目標入場者 H25 7,100人 ⇒ H29 10,500人

2、運営形態・職員等の配置

(1)当分の間、村上市直営とする。

(2)職員の配置計画

番号	役職	職名	資格等	人数
1	管理者	市長		1名
2	安全統括管理者	副市長	課長級以上管理経験者	1名
3	運営管理責任者	商工観光課長	防火管理者	1名
4	運営管理副責任者	観光交流室長		1名
5	スキー場責任者	観光交流室係長		1名
6	スキー場副責任者	観光交流室主事		1名
7	索道技術管理者	臨時職員	管理経験者	1名
8	リフト係班長	臨時職員	管理運転経験者	2名
9	リフト係	臨時職員		12名
10	パトロール係	臨時職員	SAJ公認パトロール	2名
11	圧雪係	臨時職員		4名
12	券販売係	臨時職員	アナウンス兼務	2名

(3)学校授業のサポート体制の確立

スキークラブの協力はもとより、スキー授業をサポートできる市職員等を募るほか、総合型地域スポーツクラブと連携した「スポーツコミュニティー事業」を通じた外部指導者の活用を図る。

3、営業内容

営業時間 午前8時30分から午後4時30分

リフト運転時間 午前8時30分～午後4時00分

リフト料金

券 種	大 人	小 人
1回券	250円	200円
回数券(11回)	2,500円	2,000円
2時間券	1,500円	1,000円
4時間券	2,000円	1,500円
1日券	3,000円	2,500円
シーズン券	25,000円	15,000円
シーズン券(市民早割券)	20,000円	10,000円
シーズン早割券	22,500円	12,500円
カップル(夫婦)	5,000円	
ファミリー券(大人1小人1)	4,500円	
ファミリー券(大人1小人2)	7,000円	
ファミリー券(大人2小人1)	7,000円	
ファミリー券(大人2小人2)	9,000円	
ファミリー券(大人2小人3)	11,000円	

小人料金は小中学生が対象です。

(幼児は無料ですが滑走具をはいて保護者同伴で乗車ください。)

市内小中学校の授業は、児童生徒、引率者とも無料に対応いたします。

レンタル

品 名	料 金
スキー板	1,500円
スキーブーツ	500円
ポール	500円
スキー1式	2,000円
ボード	1,500円
ボードブーツ	500円
ボード一式	2,000円
ウェア	2,000円

売店

・スキー小物、スナックなどを販売

食堂

・田舎らしさを出した蒲萄のレストラン

イベント

- ・感謝祭やスキー子どもの日などのほか、地域や総合型スポーツクラブ、スキークラブなどの協力を得て小さなイベントを多く開催し、来場者の満足度向上を目指す。
- ・子ども無料の日など近隣スキー場と連携した取り組みを行う。
- ・サケリン、トッキッキなどの活用やスキースノボ教室など（スキークラブと協力）
- ・振る舞い鍋など

4、研修

研修名	内 容	対象者	実施時期
索道技術者研修会	索道協会主催の研修	索道技術管理者	7、10月
消防訓練	避難誘導、通報、消火訓練	全職員	12月
緊急時訓練	リフト救助訓練	全職員	12月
索道技術運転研修	リフトの構造、運転等実地訓練	全職員	12月
マナー研修	接客マナー研修	全職員	12月

5、施設の点検

点検項目	内 容	対 象	実施時期
リフト修繕後完了検査	完了検査後、運輸局へ申請		11月
適合確認検査	搬器取り付け後検査		11月
ゲレンデ等安全点検	ゲレンデ等の安全確認	全施設	11月
営業再開前点検	営業再開前の総点検	全施設	12月中旬
始業前点検	毎日の始業前点検の徹底		シーズン中
1カ月点検	1カ月ごとの施設点検		1、2月

6、施設の修繕

修繕項目	内 容	対 象	実施時期
索道施設の修繕	施設総点検後の大規模修繕	第1、2ペアリフト	7～11月
格納庫修繕	格納庫屋根修繕	格納庫	9～11月
ロッジ修繕	ロッジ外壁の簡易修繕		9月
圧雪車、スノーモービル	修繕		10月

7、施設整備

- ・圧雪車の購入2台
- ・レンタル部門の充実（スキー授業や初心者に対応）

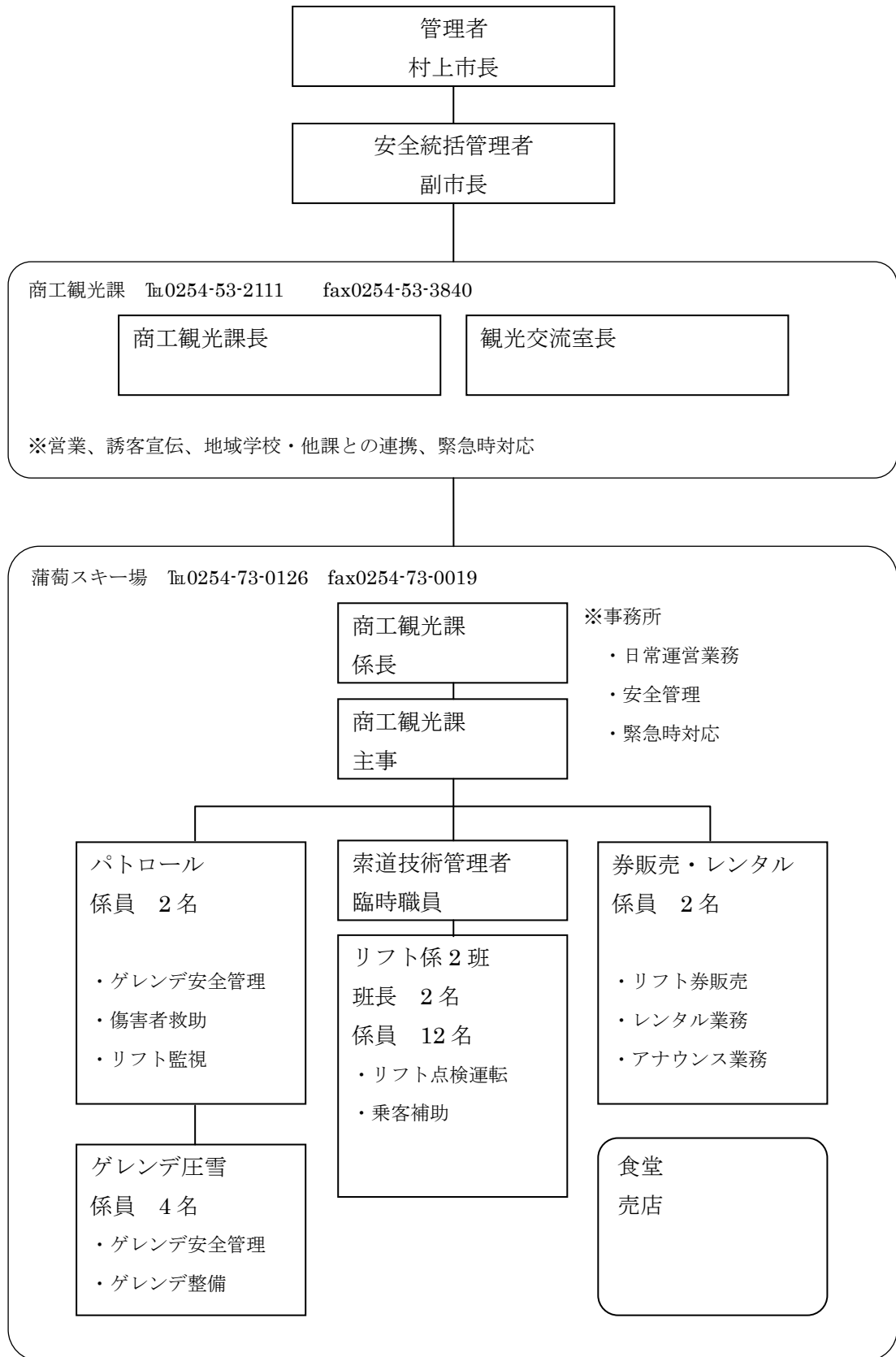
8、営業計画

事業項目	内容	実施時期
営業の強化	ポスター、パンフレット等作成し、営業再開に向けた営業活動を強化 (学校、企業、観光施設、スポーツ店、体育施設、雑誌、テレビ、ラジオなど) 日本海沿岸東北自動車道を利用した営業強化 山形県庄内地域への誘客活動強化	8月～
広報の充実	市報、HP、フェイスブックなどを利用した集客活動の実施	8月～
看板のリニューアル	現在の看板のリニューアル	8月～

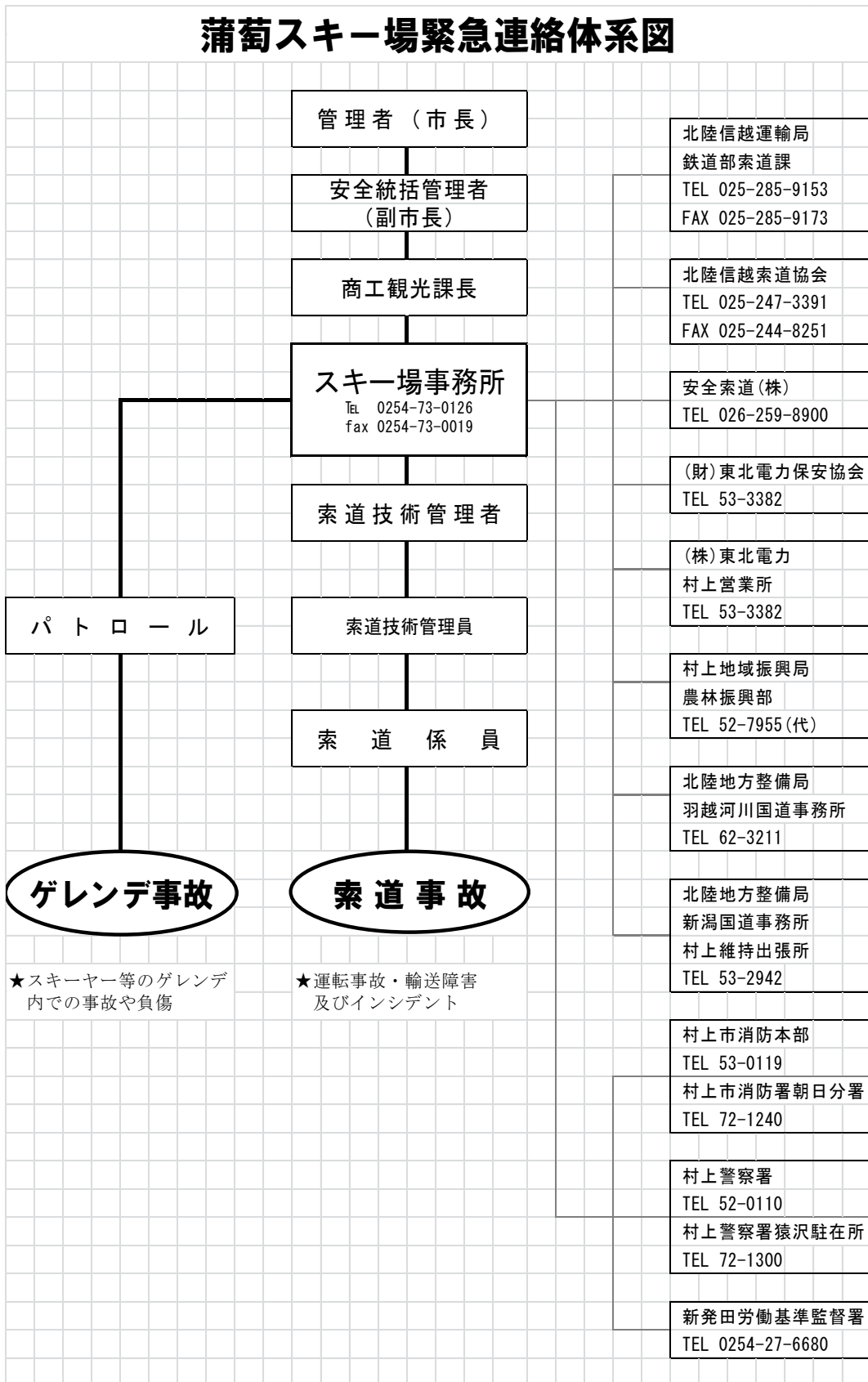
9、平成25年度部門別目標

部門	基本目標	具体策
事務所・スキーセンター	お客様満足度の向上 利用者数の向上 認知度の向上 サービスの向上 地域との連携	ご意見箱の設置 笑顔の接客徹底 スタッフミーティングの徹底 地域と連携したイベントの実施 運営会議の開催(週1回) 看板ポスター類の整理設置
リフト・ゲレンデ	お客様満足度の向上 安全安心運行 ゲレンデ管理の徹底	スタッフの資質向上 (お客様目線、接客、技術) 笑顔の接客徹底 日常点検の徹底 ゲレンデ管理、整備技術の向上 お客様が遊べるコースづくり
パトロール	お客様満足度の向上 ゲレンデ管理の徹底	雪崩防止 お客様が遊べるコースづくり 傷害者の迅速な救助・搬出 笑顔の接客徹底 索道施設の日常監視
レストラン	お客様満足度の向上 利用客数の向上	地元食材の活用 笑顔の接客徹底 メニューの検討 一般利用客の向上(地域への周知) ご意見箱の設置

10、村上市葡萄スキー場組織図



1 1、緊急連絡表



※スキー場活性化、入込客増加のための方策

①児童生徒限定の無料の日の設定

小・中学生のスキー参加率の向上及び親子でのスキー場来訪の促進のため、リフト無料の日を設定する。

②誘客のための営業活動強化

新潟、新発田市内及び鶴岡市内のスポーツ店や体育施設などへリフト割引券や招待券を配布する。

③リフト料金の改定

4時間券やファミリー券など、利用者の要望に応えるリフト料金の設定をする。

④新雪コースなどが楽しめるコース設定

新雪が積もった日は圧雪作業を行わないコースをあらかじめ設定し、中・上級者が楽しめるコースづくりを行う。

⑤子どもが楽しめるコースづくり

スキーの技量が一定程度上達した子どもたちが飽きずに楽しめるポール、コブ、ウェーブ、ジャンプ台などを設置する。

⑥子どもが楽しめるイベント等の実施

子どもたちが繰り返し来場しても飽きずに楽しめるイベント等を開催する。

(宝探し、ストラックアウト、ミニ運動会など)

⑦子どもが楽しめる巨大雪だるまや滑り台の作成

チューブスライダーやそりで遊べるミニパークを設置する。

⑧フォトコンテストの開催

「カッコいい写真」、「下手な写真」など、スマホなどで気楽に参加できるフォトコンテストを開催する。

⑨スキー・スノーボード教室の開催

キッズスキー教室の開催や、スキーしか経験がない中高年層の来場を促進するため、中高年層等を対象としたスノーボード教室を開催する。

⑩総合型地域スポーツクラブとの連携

総合型地域スポーツクラブと連携し、スキー場を利用した各種教室を開催する。

⑪ボランティア制度の充実

ゲレンデパトロール、イベントスタッフ、教室インストラクターなど、スキークラブや市職員などを中心としたボランティア制度の構築を図る。

⑫若者交流イベントの開催

雪、スキー場を利用した交流イベントを開催し、若者のふれあいの場を提供する。

⑬地域と連携した通年利用の対策

花の植栽、わらび園など冬季以外のゲレンデの利用を考え、地元集落やまちづくり団体と協働して取り組む。